

『公益財団法人中島記念国際交流財団助成』(独)日本学生支援機構実施事業

インタラクティブ（双方向）型インターン を用いた留学生就職支援プログラム 実施報告書



2016年1月

国立大学法人福島大学国際交流センター

目 次

1. 事業の概要について	P 2
2. 実施プログラム報告	
(1) 留学生双方向型インターン実習 in 土湯温泉	
・概要	P 3
・プログラム詳細	P 4
・参加学生感想文	P 5
・参加者アンケート結果	P10
・マスコミ記事掲載	P11
(2) 留学生企業見学バスツアー	
・概要	P12
・プログラム詳細	P12
・参加者アンケート結果	P13
・企業見学会報告会	P14
・マスコミ記事掲載	P14
(3) 留学生就職セミナー	
・概要	P15
3. 終わりに	P16
4. 関係者・関係団体一覧	P16

1. 事業の概要について

本学はこれまで多くの留学生を受入れてきた。しかし、ほとんどの留学生は、卒業後は帰国または都市部への就職のため福島を離れている。原因としては、留学生が福島での就職に魅力を感じていないこと、地元企業が留学生に魅力を感じていないことの2点であると考えられる。しかし、グローバル化の波が地方にも波及している現代社会において、福島で留学生生活を送った留学生が、卒業後に福島を離れるのは大きな損失である。その課題を解決し、留学生が卒業後も福島に残って地域人材として活躍するためには、「地域の企業や社会が留学生を知り興味を持つこと」、「留学生が地域に愛着をもつこと」の双方が必要であるとの認識に至った。

それを踏まえ、本事業は以下の狙いをもって実施した。

- ① 留学生が、県内企業の見学及びインターン実習を体験することで、地元企業へ魅力を感じ、興味を抱く。
- ② 地元企業が、企業見学やインターン実習を通して留学生と直接接することで、留学生への魅力を感じ、採用意欲の向上を促す。
- ③ 上記に加えて就職セミナーを開講し、留学生に対して就職マナーや日本企業について学習させることで、留学生の県内就職への循環を生み出す。

なお、本事業を通し、留学生と企業の相互理解が進み、将来的には留学生が地域を担う人材になることも期待される。



企業見学バスツアーの様子



留学生インターン実習の様子

2. 実施プログラム報告

(1) 留学生双方向型インターン実習 in 土湯温泉

① 概要

土湯温泉観光協会及び福島県中小企業団体中央会のご協力により、土湯温泉にて旅館業のインターン実習と土湯伝統工芸である土湯こけしの絵付け体験を実施した。

日 時：平成27年7月17日（金）～18日（土） 1泊2日

参加留学生：9名（中国6名、台湾・ドイツ・ベトナム 各1名）

会 場：開会式、講演、意見交換会、閉会式・・・福島市役所土湯温泉町支所
インターン実習・・・山水荘（4名）、向瀧旅館（5名）
こけしの絵付け体験・・・まつや物産店

プログラム日程：

7月17日（金）

13：40～ 開会式

13：50～ 講演 土湯温泉観光協会会長・渡邊 和裕 氏

「日本の伝統文化としての『旅館』と『和食』について」

14：30～ 1日目インターン実習開始

- ・旅館入口での宿泊客の出迎え
- ・夕食の準備の手伝い
- ・客室の布団敷き
- ・夕食の後片付け

21：00 1日目インターン実習終了

7月18日（土）

7：30～ 2日目インターン実習開始

- ・朝食膳の片付け
- ・宿泊客の見送り
- ・客室の布団片付け

10：15 2日目インターン実習終了

10：30～ こけしの絵付け体験、土湯こけし制作現場見学

12：00～ 昼食・休憩

13：00～ 意見交換会

14：00 閉会式

② プログラム詳細

インターン実習に先立ち、土湯温泉観光協会会長・渡邊和裕氏によりご講演いただき、その後、留学生9名が2グループに分かれ、山水荘（4人）と向瀧旅館（5人）にて旅館スタッフの指導の下、インターン実習を行った。1日目は、玄関での宿泊客の出迎え、夕食の準備及び後片付け、客室の布団敷き、2日目は朝食の後片付けと客室の布団片付け、宿泊客の見送りを行った。留学生は、日本独特の温泉旅館の仕事に悪戦苦闘しながらも任せられた業務を見事やりきることができた。

インターン終了後は、温泉街にあるまつや物産店にて土湯温泉の伝統工芸品である土湯こけしの絵付け体験を行い、参加者全員がオリジナルのこけしを製作した。その後、こけし工人による土湯こけしの製作を觀賞し、その独特の製作方法と完成したこけしの美しさに参加者全員感動していた。

昼食後は、土湯温泉観光協会会長と留学生が土湯温泉について意見交換会を行い、留学生からは「とてもいい場所だが交通の便が良くない。みんなが行きやすくなるように交通対策をしたほうがいい。」「別の名所とタイアップしてPRした方がいい。」「温泉街の店が閉まるのが早く、夜がとても寂しい。」「客層は年配客が多いという印象を持った。若者が来たいと思うような街作りが必要。」などの意見が出された。



③ 参加者代表感想文

・魏 旭旭

「中島記念国際交流財団」を通して福島大学の国際交流センターから今回の土湯温泉のインターン実習のお知らせをいただきました。中国でも日本でも初めての温泉を満喫し、とても楽しい土湯温泉インターン実習体験ができたことに感謝します。

二日間のインターン実習で、いろいろな温泉旅館の業務を勉強しました。自然の力に癒されて、山里の湯に浸る旅を経験しました。吾妻の山なみや眼下を流れる荒川の溪流と滝に囲まれた露天のお風呂です。街の騒々しさを離れ蝉の声を聴きながら、ゆっくりと手足を伸ばすと日頃の疲れがお湯に柔らかく溶け出ていくようでした。

お風呂から眺める日本庭園の山里の光・風と香りを感じながら、ふと故郷の家を思い出し父や母、友の顔が次々に浮かぶのは、ここの景色がそうさせるのでしょうか？

また、インターン実習で、温泉旅館の様々な仕事を体験しました。その中で一番深い印象を持ったのは旅館のスタッフがお客様のためにする布団敷のサービスです。お客様がいらっしゃる間にそっと敷かれるのでお客様の目には、まるで魔法のように映ると思います。このようなおもてなしが、感謝の言葉となり、スタッフの方々の仕事への励みになっているのではと思います。

我が家でくつろぐように配慮された快適さと、自然の癒しの力は山水荘の温泉旅館の魅力でしょう。次に訪れるときは、父や母と庭園をのんびり散策し、和室でのんびり過ごしたり、或いは友と日本料理を食べお風呂でおしゃべりしたいという夢ができました。このような機会をまた作り、夢を実現させ訪れたいと思います。

・张 洁琼

私は、中国からの留学生で、日本にきてこの一年間、日本の文化を自ら感じとろうしています。そのため、土湯温泉に行けるチャンスを知った時、私は迷わずすぐ申し込みました。

土湯温泉に行ったとき私たちは、二つのチームに分かれ、別々に実習を体験しました。私は向瀧という旅館になりましたが、向瀧旅館の皆さんはとても優しく、気さくな雰囲気の中でお話なども飛び出しながら、いろいろな部署のお話を聞く事が出来ました。

向瀧旅館で、私たちは、日本の旅館の仕事を教えていただきフロントでお客様の出迎えや夜に布団敷、翌日の朝食後片付けなどを体験しました。

このような仕事は、説明を聞いたときは簡単に思いましたが、2日間の体験から、どんな仕事でもそれぞれ表に見えないスタッフの苦労があり、一朝一夕に身に付くものではないことを感じました。

初日の仕事が終わってから、私たちは温泉に入りました。温泉は男女二つに分かれてい

ますが、時間帯によって選ばれますし、めったにないチャンスなのですから私は二つとも入りました。向瀧旅館では、「くつろぎの湯」、「星のささやき」、「月のほほえみ」などいろいろな種類の温泉があります。短時間でしたが、私はその温泉をすべて体験し、露天風呂にも初めて入りました。温泉に入りながら、外の美しい風景を楽しむことができ、心身ともに寛げることは世の中で一番幸せなことだと思います。

翌日、旅館の体験終了後、私たちは、土湯こけし作りを体験しました。まず、紙に自分の描きたい絵を何回か下書きして、準備ができたなら本物の上に描く事ができます。実は、私は、絵をかく事が小さいころから苦手で、この実習体験でこけし作りのプログラムだけは、唯一「参加したくないもの」でした。しかし、みんなとおしゃべりしながら、絵筆を握り、丸いこけしに絵を画いていくことは、今までにない面白さでした。みんなと見せ合いながら夢中で取り組みました。自画自賛ですが、自分が作ったのが一番かわかったです。

2日間の実習は、すぐ終わりましたが、いろいろ勉強し、インターン実習やこけし作りを通して、大学生活とはちがう友達の一面を知ることが出来ました。最も、重要なのは、日本の温泉文化の魅力です。スタッフのお客様への思いやり、自然、料理が一体となりおもてなしに繋がるのだと思います。

2日間のインターン実習は私にとって得がたいものでした。またチャンスがあったら、もう一度行きたいと思います。ありがとうございました。

・張 天一

今回の土湯温泉インターン実習プログラムで、土湯温泉の山水荘にお世話になりました。その中で、地元福島温泉の温泉旅館で日本独特の旅館業務を体験することで、日本文化への深い理解や強い関心などを高めました。

私はインターン実習の2日間を通して、土湯温泉旅館業務の体験（配膳、客室整備、接客など）に関わらせていただきました。山水荘のスタッフたちには、本当に親切にいただきました。旅館では、館内の案内から始まり、宴会場の準備や下膳や客室の整備や片づけ、朝食の準備と片付け、宿泊客の見送りのお手伝いなど様々な仕事を体験すると共に、おもてなしの一言で言われる接客の仕方や部署ごとの心構えなどを聞くことができました。旅館業界は一見華やかそうに見える職業ですが、実際は裏で多くの人たちの支えがあるからこそ成り立つ仕事だということを改めて認識しました。

また、様々な仕事を体験させていただいたと同時に、土湯温泉の山水荘の綺麗さ、景観、静けさなどに癒やされました。緑の森林や山々など自然に囲まれ、日本庭園を歩けば、溪流の音と滝の音が聞こえます。旅の館。その名の通り、山水荘にお越しいただければ、大自然の懐の中で行き届いたおもてなしを受けられます。

今回の土湯温泉インターン実習インターン期間中に経験したことや感じたことは、日々の生活やアルバイトをする上において、とても役立っています。

来年の就職活動において今回の経験はどれほどの糧となるでしょう。お世話になったスタッフの皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

・曹 滄坤

毎年、日本を訪れる観光客が大勢いる。買い物、花見、神社への参拝をするなどいろいろ楽しいことがある。日本の温泉は世界中に広く知られている。今回は私が日本に来てから二回目の温泉旅行となる。一回目は鬼怒川温泉旅行だった。海外の温泉と違い、日本の温泉には独特なところがたくさんあり、とても魅力的である。そして、今回はただの温泉旅行ではなく、スタッフとして働きながら一泊二日旅館実習インターン生活を体験した。おかげで、今まで、経験していない多くのことを味わった。

スタッフとして働くのは初体験で、緊張した。仕事は午後から始まった。最初は客を出迎え、荷物運搬を手伝い、挨拶するなど、見た目は単純で、簡単だが、スタッフとして人と接したことがあまりないので、「いらっしゃいませ」の挨拶のことばが小さな声でしか言えなかった。スタッフからこまごました所まで親切に教えてもらった。晩ご飯の後の仕事は客に布団を敷くことだった。女性スタッフたちがまず見本をしめしてくれたが、みんなが一心不乱で、仕事に対して熱心だった。私たちも同じ手順で早く、綺麗で、礼儀正しく仕事をしてすぐこの作業を終えることができた。特に、ドアをノックした時、小さな声で「すみません」と言いながら、静かに入室していく。海外では普通の会話でもいつも喧嘩のように聞こえるが、日本人が小さな声で話すのは他人に迷惑をかけないという日本の美德の一つであると私は考えている。

温泉だけではなく、日本のサービス業全体は高く評価されている。確かに評判の通り、風呂場、寝室、レストラン、隅々まで素晴らしかった。今回、泊まったホテルでは玄関までのアプローチ、トイレ、洗面台、いつでも綺麗である。どのスタッフも念を入れて仕事をしていて、彼らの真面目な姿に感服させられた。晩ご飯には和食が用意され、私は大変嬉しかった。何年も日本に住んでいるとはいえ、今でも和食にあまり慣れていないので、どんな順番で食べるか、どの道具をどのように使うか、支度をしていたスタッフに丁寧に教えてもらった。和食にはおかずの種類が多いが、各種類の量が少なく物足りなく思ったが、食べ終わるとだんだんと満腹感がでてきてちょうどよくなった。ほかに、お皿や茶碗にある料理がとても精緻に置かれ、見ただけで心が和やかな気分となった。和食がただの食べ物ではなく、雅やかさ、美しさという日本文化を表現していることがよくわかった。

夜の温泉体験はなかなか忘れ難い。水を沸かしてプールの中に注いだり、あるいは、プールの水を加熱したりする海外と違い、日本の温泉のお湯は地上から噴出した天然水で、とても心地よかった。向瀧旅館の温泉には室内に一つ、室外に二つの風呂がある。露天のほうから、川や森が見られ、ふわふわして気持ちがよかった。翌朝、もう一度温泉に入った時、男湯と女湯が交換されたことに気付かず、うっかり女湯に入ってしまった。ここは、もう少し丁寧な説明が欲しいと思う。大きなお風呂に大勢で入るという事になじみがない

ので、男同士でもやはり裸で入るには恥ずかしく、今回は人が少なかったので、助かった。

二日目の朝、こけしの作り方を学んだ。今まではこけしはどのようなものか知らなかった。不器用だが、自分も一個作った。こけしの頭と体は木で作られ、高い材料ではない。各々の工人たちのこけしに寄せる想いが移っているからこそ価値がある。こけしは工人たちの人生が結実したものなのだ。描くには難しく、豊かな想像力が必要であった。

今回のインターシップ見学は福島県における有名な温泉を体験し、また、旅館の経営、客との接し方などを覚える事ができた。学校で学べないことが沢山あり、とても貴重な経験であった。このような機会を得た事に感謝したい。

・張 亞萌

今回の土湯温泉インターン実習はとっても楽しかったです。スタッフがいろいろ教えてくださいましたのは有難い事です。私たちはインターンのスタッフとしてホールの前でお客様の出迎えをしました。ただ立っているだけのことですが、難しく大変です。姿勢を正しくて笑顔を出さないといけないからです。仕事を粘り強くする意味もここから始まるのだと分かりました。料理もしっかり、素材を丁寧に扱うからこそ美味しくなるのです。ゆったりと温泉に入ると気持ちも良くなりました。じんわりしたお湯の暖かさが体をほぐしてくれるのは素晴らしい感覚です。日本は温泉大国と言って、日本人ほど温泉の好きな国民は世界中どこを探してもいないと思います。以前、温泉に行ったときは、日本が火山の多い国だから、温泉に人気があるのは当たり前だと思っていましたが、今回のインターンをきっかけに、それだけではないことがわかりました。私の国にも温泉がありますが、少し違うところが娯楽施設にあります。私の国の温泉旅館にはピンポン、バスケット投げ、ビリヤードなどの娯楽施設が沢山あります。

日本の温泉と言えば、日常の雑踏からの解放と癒しを求めるために風光明媚な場所にあり、お客様は自然への回帰を求めます。実際に温泉には体をリラックスさせる成分がありますし、自然の豊かな環境でお湯に入ることによって精神的にもリラックスして、相乗効果をもたらします。これも中日の文化の違いだと思い、有意義な体験だったと思います。

・蔡 騰輝

今回大学で、土湯温泉インターン実習を開いてくださって本当にありがとうございました。もし学校の力がなければこんな機会はなかったでしょう。インターン実習に参加していろいろ勉強になりました。わずか2日の間で、初めての体験ばかりでしたが、多くの事を楽しみました。このイベントのおかげで、大切な思い出もたくさん出来ました。最初の旅館の接客から最後のこけし作りまで楽しいことの連続でした。改めて日本人のサービス精神に感動するとともに、何事にも徹底するという事に驚きを禁じえませんでした。ごく普通にみえる接客だけでもいろいろと工夫があり「おもてなし」という言葉の一端を知りました。夜の和

食料理と温泉も最高でした。テンションが高すぎて徹夜で遊んだりしゃべったりしてしまいました。こけし作りも初めてなので、店の方の教えを聞きながら絵を描きました。上手にできた人や 私の目には??と映る人もいましたが、皆、和気あいあいで作りました。簡単そうでしたが、思っていた以上に難しいことでした。今回インターン実習のなかで、一番の収穫は「おもてなし」という言葉にあらわされる温泉旅館の接客の仕方や仕事の内容を知ることでした。本当に充実した2日間を過ごすことができ参加してよかったと思います。このような日本の文化や伝統に触れたり知ったりするイベントは中々ないのでごくいい経験になりました。特に外国人の留学生にとって、参加して損はないでしょう。次回このような機会があればまた参加したいと思います。

・ TRAN DOAN HAO

7月に、土湯温泉インターン実習させていただいて、本当に楽しかった。一番印象が強いのは土湯温泉の景色だ。静かなところで、空気も綺麗だ。リラックスしたい時、湯の中で漂っている気分は最高だ。食事のほうも良かった。和食は見た目も味も美味しくて、また食べてみたい。私たちは、土湯温泉の伝統的な土湯こけし物を作らせてもらった。記念の品なので本棚にずっと飾っている。友達には面白いものだねと言われた。自分で作ったと言ったら、どんなふうにしたのかと興味深々に尋ねられた。いろいろと顔や胴体の模様などを説明したが、これは経験してみないとわからないだろう。

すごくいい所なのに、観光客がまだ少ないと気がついた。日本人客はもとより外国人の観光客も来ていない。これは残念だと思っている。原発の影響で皆が福島は危ないところだと思ってなかなか来てくれないと考えられる。こんな困難な状況でも、土湯温泉の皆さんはよく頑張っていて、日本中いや世界に紹介するのは素晴らしいだろう。先月、テレビでこのニュースを見た。「温泉地の若旦那衆、ベトナムの観光関係者に福島の魅力をPR(15/09/07)」お互いの国の魅力が伝わると思うと胸が躍り、本当に嬉しい。これから、ベトナム人観光客がどんどん来るのを願う。皆さん一緒に頑張りましょう。



④参加留学生アンケート（9人）

I 講演「日本の伝統文化としての旅館と和食について」

- ・とても勉強になった 7人
- ・まあまあ勉強になった 1人
- ・あまり勉強にならなかった 1人
- ・全く勉強にならなかった 0人

II 旅館でのインターン実習について

- ・とても勉強になった 5人
- ・まあまあ勉強になった 2人
- ・あまり勉強にならなかった 2人
- ・全く勉強にならなかった 1人

III こけしの絵付け体験について

- ・とても勉強になった 6人
- ・まあまあ勉強になった 3人
- ・あまり勉強にならなかった 0人
- ・全く勉強にならなかった 0人

IV 意見交換会について

- ・とても勉強になった 3人
- ・まあまあ勉強になった 5人
- ・あまり勉強にならなかった 1人
- ・全く勉強にならなかった 0人

V 本プログラムに参加して、印象に残ったことをご記入ください。

- ・1日目に体験した接客業務がとても印象に残った。また、普段、学校では勉強しなかったお客様に対する言葉遣いやお辞儀、挨拶などの礼儀作法を教わり、勉強になった。
- ・スタッフの方もやさしく、丁寧に教えていただき、和食も手際よく作ることができて、いい経験になった。
- ・簡単な仕事だったが、長時間体験したら大変だった。こけしの絵付けはとても面白かった。
- ・意見交換会を通じて、土湯温泉の実態を理解することができた。
- ・旅館スタッフは、見送りの仕事など毎日大変だと思った。自然の風景は気持ちよく、露天風呂は最高だった。
- ・初めて和食を食べたのが最も印象に残った。外での接客も初体験で良かった。
- ・土湯温泉の景色はとてもきれいだった。和食を食べることができたのがうれしかった。

- ・枕カバーの準備が完璧にできなくて、やり直しをさせられた。裏方の仕事を体験することができ、感銘を受けた。目につかないところで一生懸命働いているスタッフの方は素晴らしいと思った。

VI インターン実習で感じた日本の旅館の良い点をご記入ください。

- ・日本の労働環境を視察することができた。スタッフの献身さには本当に感銘を受けた。
- ・スタッフは全員、真面目で責任感が強かった。仕事も早く、お互いに協力して行っており、旅館の隅々までとても綺麗だった。お客様に対する丁寧な言葉遣いには感動した。
- ・綺麗で静かなところが良かった。特に窓から眺める景色はとても素晴らしい。
- ・サービスが丁寧でやさしい。真剣にお客様のことを考えて仕事をしていた。
- ・山水荘の日本庭園がとても綺麗だった。また、和食がとてもよかった。
- ・旅館と自然の近さに親しみを覚えた。露天風呂は本当に人の気持ちをのんびりさせると感じた。和室の雰囲気がとても良かった。
- ・日本人のサービス精神と接客マナーを改めて実感した。
- ・和食や布団敷きのサービスがとても良い。

VII 将来は日本に就職したいですか。

- ・就職したい 4人
- ・就職したくない 2人
- ・未定 3人

VIII VIIの理由をお聞かせください。

(就職したい)

- ・日本が好きだからずっと日本にいたい。就職を通じてさらに日本や日本文化を知りたい。
- ・日本文化をもっと深く理解したいから。
- ・長く日本にいるかは未定だが、卒業後は、日本で数年働き、優れた点と働き方を覚えて帰国し、母国（中国）の会社に伝えたい。

(就職したくない)

- ・日本での仕事は、大変で負担も大きいと先輩から聞いた。
- ・労働条件を考えると日本では働きたくない。日本はワーク・ライフ・バランスをもっと考えるべきである。

⑤マスコミ記事掲載

福島民報新聞 平成27年7月18日（土）「留学生が旅館業体験」

福島民友新聞 平成27年7月18日（土）『「おもてなし」文化 福大留学生が体験』

(2) 留学生企業見学バスツアー

① 概要

福島県中小企業団体中央会及びアカデミア・コンソーシアム・ふくしまの協力を仰ぎ、福島県内の企業を訪問するバスツアーを実施した。

日 時：平成27年10月21日（水）

参加留学生：12名（ベトナム8名、中国6名、中国3名、オーストラリア1名）

見学企業：①(株)サンライト（福島県二本松市渋川字蛇森1-2）

主な事業内容：車載関連工業部品、OA機器関連部品、AV機器関連部品の製造
（例：カーナビ、オーディオ、車載内装品、携帯電話などの部品）

②(株)ラジオ福島（福島県福島市下荒子8）

主な事業内容：ラジオ番組制作・放送

プログラム日程：

10月21日（水）

12:50～ 出発・移動

13:10～ (株)サンライト見学

14:30～ 移動

15:00～ (株)ラジオ福島見学

16:30 終了

② プログラム詳細

(株)サンライトでは、見学に先立ち、吉田社長より会社の概要について説明があった。続いて3班に分かれ、社員の案内で成形加工、溶剤・水系塗装加工、レーザー加工、印刷加工の作業現場を見学し、最後に本学留学生OBのウさんより留学生に向けて貴重なアドバイスをいただいた。

(株)ラジオ福島では、先ずラジオ生放送を観覧し、その後、2班に分かれ、放送設備などを見学した。その後、石田久子アナウンサーより、東日本大震災時のラジオ福島の対応についての講話を聞き、最後に留学生のリクエストにより全員で発声練習を行った。



③ 参加留学生アンケート

I 企業見学の満足度について

(株)サンライト

- ・とても勉強になった 8人
- ・まあまあ勉強になった 4人
- ・あまり勉強にならなかった 0人
- ・全く勉強にならなかった 0人

(株)ラジオ福島

- ・とても勉強になった 9人
- ・まあまあ勉強になった 2人
- ・あまり勉強にならなかった 1人
- ・全く勉強にならなかった 0人

II 企業見学で印象に残ったことを教えてください。

(株)サンライト

- ・丁寧に商品を製造している社員を見て、なぜ日本が発展しているのか実感した。
- ・他国、他社が作れない部品を製造することが企業にとって強みになると実感した。
- ・工場の管理システムのもと、分業体制が効率よく機能していると感じた。
- ・ゴミの除去とインクの管理が大切だと勉強した。
- ・金型塗装やレーザー加工について、詳細に説明してくれた。また、車の部品の製造についてはとても興味を持った。
- ・部品加工の各過程を見学することができ、とても勉強になった。
- ・会社のスタッフは、全員一生懸命仕事をしており、かつ規則を守っていることがとても素晴らしいと思った。
- ・中小企業にも関わらず、技術力が高く、高品質の製品を効率よく製造している。
- ・たくさんの有名企業と取引していることに驚いた。
- ・案内していただいた社員はとても熱心な方だった。
- ・中小企業なのに、製造システムがとても大きいことに驚いた。

(株)ラジオ福島

- ・震災直後の放送について聞くことができ、感動した。
- ・チームワークが非常に高い。また、東日本大震災の際にラジオが果たした役割が非常に大きかったことがわかった。
- ・レコード室でのアナウンサー体験がとても面白かった。
- ・生放送を見学できて良かった。
- ・教えていただいた発音の方法を通して、日本語をもっと上手く話せるようになりたい。
- ・人と人、人とモノを繋げる仕事であると感じた。取材をして一つでも多くの情報を

収集し、私たちに早く詳しく伝えられるよう頑張っていると感じた。

- ・東日本大震災の時に350時間にわたって生放送したことがとても印象に残った。
- ・ラジオの放送の方法が理解できた。
- ・綺麗な発音を教えていただいたことがとても良かった。



④企業見学報告会

平成27年12月5日(土)に、東日本国際大学で企業見学報告会(主催:アカデミア・コンソーシアムふくしま)が開催され、本プログラムに参加した留学生のうち5名が参加し、レ・ティ・イエンさん(ベトナム)とチャン・ティ・ビク・グエットさん(ベトナム)が(株)サンライトについて、丁偉さん(中国)、ホー・ハイ・ソンさん(ベトナム)、グエン・フー・ロクさん(ベトナム)が(株)ラジオ福島についての成果報告を行った。その後は、企業関係者や東日本国際大学留学生を交えて「福島県内企業に対して留学生ができることは?」というテーマでディスカッションを行い、交流を深めた。



⑤マスコミ記事掲載

福島民報新聞 平成27年12月6日(日)「県内企業見学の成果報告」

(3) 留学生就職セミナー

概要

特定非営利法人留学生職業能力開発センターに委託し、留学生が日本企業への就職活動を行うにあたり、必要となる知識の習得と礼儀作法等についての指導を行った。

①第1回

日 時：平成27年 8月 8日（土） 9：00～17：00

講 師：早川 芳子（特定非営利法人職業能力開発センター）

佐藤 洋子（特定非営利法人職業能力開発センター）

参加者数：6名

②第2回

日 時：平成27年10月 7日（水） 14：30～17：30

講 師：早川 芳子（特定非営利法人職業能力開発センター）

河野 忠生（特定非営利法人職業能力開発センター）

オーマル ムザパル（特定非営利法人職業能力開発センター）

参加者数：7名

③第3回

日 時：平成27年12月 2日（水） 14：30～18：30

講 師：早川 芳子（特定非営利法人職業能力開発センター）

早川 剛（特定非営利法人職業能力開発センター）

三瓶 昌久（特定非営利法人職業能力開発センター）

参加者数：5名

④第4回

日 時：平成28年 1月13日（水） 14：30～18：30

講 師：早川 芳子（特定非営利法人職業能力開発センター）

ザイナ シャフマイエーフ（特定非営利法人職業能力開発センター）

三瓶 昌久（特定非営利法人職業能力開発センター）

参加者数：4名



3. おわりに

中井プラン2021において、本学は「地域と共に歩む人材育成大学」をスローガンに掲げ、福島の復興と発展に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。そしてそこには、当然ながら本学で学んでいる留学生も含まれている。しかし、ここ数年は留学生と地域との繋がりとはそれほど強いものではなく、さらにはほとんどの留学生は卒業後に首都圏の企業に就職しているのが現状である。その課題の解決のきっかけとなるべく、本事業が計画され、幸いにも公益財団法人中島記念国際交流財団の助成をいただくことができ、本年度に実施することができた。

本事業は、温泉旅館でのインターン実習、企業見学、就職支援セミナーの3つのプログラムで構成されている。参加者は、想定していた私費留学生のみならず、協定校からの交換留学生も数多く参加し、多くの留学生に福島の産業について学べる場を提供できたのは大きな成果である。特に、インターン実習においては、旅館業の仕事だけではなく、県内の観光業や地域産業についても学習することができ、また、企業見学においても、直接足を運び、自分の目で仕事の現場を確かめることができたことで、両プログラムとも参加学生からは将来を考えるうえでとても勉強になったとの報告があった。

しかし、初めての試みであったことからプログラム運営が拙いものとなってしまったこと、参加学生数が当初の予想（インターン実習：10名、企業見学：20名、就職セミナー：10名を想定）を下回ったことは大いに反省すべきところである。特に、積極的な広報を行ったにもかかわらず参加学生数が予想を下回ったことについては、その要因について急ぎ調査・分析する必要がある。そしてその分析結果を、次年度以降のプログラム構築に活かしていく必要がある。

最後に、本事業の実施にあたり、ご支援いただいた公益財団法人中島記念国際交流財団、福島県中小企業団体中央会、アカデミア・コンソーシアムふくしま、土湯温泉観光協会、山水荘、向瀧旅館、まつや物産店、(株)サンライト、(株)ラジオ福島、特定非営利活動法人留学生職業能力開発センターの皆様方には厚く御礼申し上げたい。

4. 関係団体一覧（敬称略）

①留学生インターン実習 in 土湯温泉

土湯温泉観光協会、山水荘、向瀧旅館、まつや物産店、福島県中小企業団体中央会

②企業見学バスツアー

福島県中小企業団体中央会、(株)サンライト、(株)ラジオ福島、アカデミア・コンソーシアム・ふくしま

③留学生就職セミナー

特定非営利活動法人留学生職業能力開発センター



「公益財団法人中島記念国際交流財団助成」(独) 日本学生支援機構実施事業
インタラクティブ(双方向)型インターンを用いた就職支援プログラム
実施報告書

2016年1月

編集・発行 福島大学国際交流センター